

科目ナンバー： 研究・CNS：MC7102

授業コード： 6930700900

講義科目名称： 老年高度実践看護学実習Ⅱ

英文科目名称： Advanced Clinical Practice of Gerontological NursingⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	4単位	選択 老人看護CNS必修
担当教員			
◎小長谷百絵、原等子、東條紀子			
添付ファイル			

授業種類	【開講】 前期	【授業時間】 180時間		
	【担当教員】			
	【氏名】 ◎小長谷 百絵 原 等子 東條 紀子	【所属】 新潟県立看護大学 同上 同上	【研究室】 213 303 308	【メールアドレス】 konagaya@niigata-cn.ac.jp naohara@niigata-cn.ac.jp toujou@niigata-cn.ac.jp
	【本学の科目区分】 専門分野			
	【DP1】 【DP2】 【DP3】 【DP4】 【DP5】			
	研究 CNS 助産	◎ ◎ ◎ ◎ ○		

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症をもつ高齢者に生じている健康課題や生活上の課題、行動障害について、包括的なアセスメントを行い、その要因を探索できる。また、意思表示を助け、認知症をもつ高齢者のニーズを明らかにして記述することができる。</li> <li>2. 認知症をもつ高齢者及び家族のニーズ、健康課題、解決すべき生活課題を明確にして記述することができる。</li> <li>3. 認知症をもつ高齢者及び家族の課題の解決のために、専門性の高い看護実践と評価ができる。</li> <li>4. アウトカム評価を行い、ケアの評価を明確にして記述することができる。</li> <li>5. 多職種と協働して専門性の高いケアの実践、教育、連携と調整、コンサルテーション、倫理調整、研究活動ができる。</li> </ol>
------	---

授業概要	<p>認知症高齢者が医療施設（外来）受診に到った経緯、外来における診断検査・治療および医療施設や介護老人保健施設、認知症高齢者対応共同生活介護（グループホーム）に入院・入所して治療・ケアを受ける認知症高齢者の背景を理解し、老人看護 CNS に求められる役割を修得できるよう実習する。指導教員ならびに老人看護 CNS もしくは認知症認定看護師もしくは認知症高齢者看護に経験豊富な看護師長及び施設管理者の指導のもとに実習を行う。</p> <p>なお、高度看護実践のケースレポート（看護過程 1 例と退院計画 1 例）また、倫理、調整、相談、スタッフ教育の実践活動レポート各 1 部を作成する。</p>
------	--

授業計画	<p>1 授業内容          授業形態：実習          学修課題：高度看護実践          学修内容：認知症に加え、疾患や加齢が加わっている複雑な身体状況をフィジカルアセスメントし、認知症をもつ高齢者に対する理解を深めるために、専門的な観察、コミュニケーションを図り、生活行動（行動障害等）、心理（混乱や不安等）、社会面での個別的なアセスメントする。認知症をもつ高齢者の環境や家族の状況、ケア体制（家族介護力や精神面・身体面・経済状況、介護サポート体制等）の課題を明確にするために包括的にアセスメントする。          事前学修：認知症の人について既習の学修内容を振り返る          事後学修：実習計画を立てる          備考：小長谷，原，東條</p> <p>2 授業内容          授業形態：実習          学修課題：倫理①          学修内容：倫理的判断が必要とされる看護場面で関係者間の倫理的調整と意思決定の支援ができるよう実習する。          事前学修：認知症の人の看護場面での倫理調整と意思決定の支援について既習の学修内容を振り返る          事後学修：場面を振り返り考察する          備考：小長谷，原，東條</p> <p>3 授業内容          授業形態：実習          学修課題：調整          学修内容：対象者に必要なケアが効果的に提供されるために、高齢者ケアに携わる家族、保健医療福祉職間の調整の在り方について実習する。          事前学修：認知症の人の看護場面での調整について既習の学修内容を振り返る</p>
------	---

	<p>事後学修：場面を振り返り考察する 備考：小長谷，原，東條</p> <p>4 授業内容 授業形態：実習 学修課題：相談対応 学修内容：看護職を含むケア提供者（コンサルティ）から相談を受け，コンサルテーションの知識・技術を活用して相談に対応する実践から評価まで実習する 事前学修：相談対応について既習の学修内容を振り返る 事後学修：場面を振り返り考察する 備考：小長谷，原，東條</p> <p>5 授業内容 授業形態：実習 学修課題：スタッフ教育 学修内容：実習施設の役割・機能を考慮し，ケアチームにおける看護専門職として，スタッフのケア実践に関する助言を行う。また，ケアの質向上につながるスタッフ教育・研修計画を企画，実施，評価を実習する。 事前学修：スタッフ教育について既習の学修内容を振り返る 事後学修：場面を振り返り考察する 備考：小長谷，原，東條</p>
事前・事後学習	<p>事前学修：講義内容を振り返り各自の看護実践上の課題や関心を持ち実習に臨む 事後学修：看護実践上の課題に応じて新たな文献を精読する。</p>
評価方法、評価基準	<p>到達目標1～5に対して実習事前準備，実習の出席状況，実習目標達成度の自己評価，実習指導者と指導教員による評価，実習レポートの評価を総合して行う。 実習事前準備：20%，実習参加状況：30%，実習ならびに課題レポート：50%により評価する。</p>
テキスト	最新の論文や文献を使用するため現時点では指定せず授業内で案内する
参考図書・資料等	実習の中で随時紹介する。
受講、課題、資料配布等のルール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学の実習要項を事前に配布し，説明する。実習の目的・目標を十分理解すること，また，実習施設の場所・理念や方針・組織・看護提供体制などについては，ホームページなどを活用して情報を入手し理解しておくこと。</li> <li>・実習の目的・目標達成のための，具体的な実習計画書（課題，受持つ対象像，日程と具体的活動など）を事前に作成し，教員・臨地指導者と調整すること。</li> </ul>
教員からのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CNSとして求められる6つの役割について十分復習して理解を深めておくとともに，CNSを志向する学生としての基本的なマナーを守り，看護職のモデル的役割を發揮してほしいと思います。また，実習Ⅱの目的・目標を十分理解し，その達成に向けて臨地指導者とより良い関係のもと，調整しつつ効果的な実習を展開することを期待しています。</li> </ul>
オフィスアワー	随時（メール調整）